

令和五年度 奈良県教育長賞

支えられている命

宇陀高等学校 一年 坂口 巧

以前僕の三才の弟が、肺炎で入院しました。1週間ほどで退院できましたが、食べたり飲んだりできなかったので、24時間の点滴と酸素吸入をしました。弟は、自由に動けないのですごく嫌がり、お父さんやお母さんが交代で病院に泊まり大変でした。入院をするとお母さんは仕事を休まなくてはならず給料が減っているし、入院準備や僕の食事代などでいろいろ出費が重なって支払いが高かったらどうしようと内心ドキドキしていました。退院の日、入院費安くて良かったとお母さんが言っていたので、僕は少しほっとしました。支払った金額を聞いてみると、五千円でした。僕は、たくさんお薬も点滴も使い部屋も一人で使っていたのでもっと高いと思っていました。「どうしてこんなに安いのか？入院だったからもっと高いんじゃないの？」と聞くとお母さんから乳児医療助成金で、安くすんだのだと聞きました。乳児医療なんて聞いたこともありませんでした。僕は、どういう仕組みか調べてみました。

医療費の負担を減らすために、税金が使われており「所得税」という税金で医療費にまかなわれている事を知りました。また、小児や乳児は病気にかかりやすく医療費が高くなる為このような制度があり、各市町村で助成されています。窓口で、支払いがないことで病院代が無料と思っている人も多く保険料から八割、税金から二割支払われて医療を支えていることなど知らない人が多いことも調べていくうちに知る事ができました。

小さい弟が、何度病院へ行っても、一か月五百円しかかからなかったり、薬代が無料になっているのも、この税金のおかげと知りました。こういった制度が無かったら、お金に余裕もなく病院に行きたいけど行けない人が入院費も払えず借金をする人がいるかもしれない。そういった困っている人たちをも支えているのだと知りました。また、自分の生活や弟の小さな命が、たくさんの人から支えてもらっていることを知り、感謝の気持ちで一杯になりました。

この作文を書くことで、あらためて税金のありがたさや大切さを考えることができ、身近に感じるようになりました。税金は、とられている・余分に払わされているのではなく税金を納めることでみんなを支え合い、安心・安全な暮らしが保たれていると思いました。

これからも税金に感謝することを忘れず、きちんと税金を納める大人になりたいと思いました。そして、僕が納めた税金で小さな命や、困っている人の役に立ち、社会や自分の街を支える力になりたいと思いました。